

# 各分野の今後の取組について

## 生活習慣病

- がん
- 循環器病
- 糖尿病
- COPD
- 肝疾患

## 生活習慣

- 食生活
- 身体活動・運動
- 休養・こころの健康
- 飲酒
- 喫煙
- 歯・口腔の健康

# 分野

# 循環器病

ロジックモデル

## 個別施策

(1)循環器病予防のための普及啓発（家族性高コレステロール血症の普及啓発含む）

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	7	5	1	1
市町村	7割の市町村で実施(29/41)。圏域ごとで取組状況が5割～10割と差がある。			
県民会議	今年度確認予定			

(2)健診受診率向上にむけた取組（地域・職域保健の連携、市町村国保の健診費用助成、受診しやすい体制整備等）

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	5	5	0	0
市町村	8割の市町村で実施(32/41)。休日健診やナッジ活用等の工夫あり			
県民会議	今年度確認予定			

## 中間アウトカム

年	結果	備考
年に一度は健診を受診し、早期発見につとめている。必要に応じて保健指導や適切な治療を受け、重症化を予防している		
指標 収縮期血圧140mmHg以上の者の割合	↓	全国より悪い
指標 LDLコレステロール160mg/dl以上の者の割合	↓	全国と同程度
3 指標 HbA1c6.5%以上の者の割合	↑	全国は改善しているが沖縄は悪化
指標 メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合	↓	全国より悪い
指標 特定健康診査の受診率	↑	全国は改善しているが沖縄は悪化
指標 特定保健指導実施率	↑	全国より良い

## 分野アウトカム

循環器病(脳血管疾患、心疾患)の年齢調整死亡率が減少している	指標項目	基準年	直近の前年	直近値	結果	中間目標	
2 参考指標 心疾患の年齢調整死亡率	男性	県	175.1 (R2)	198.7 (R4)	181.2 (R5)	↑	減少
		全国	190.1	205.7	201.6	↑	
	SMR(対全国)	県	95.1	94.3	94.5	↓	
		北部	102.7	89.4	89.2	↓	
		中部	97.9	93.2	90.1	↓	
		南部	89.6	92.5	92.6	↑	
		宮古	119.0	113.6	123.8	↑	
	八重山	79.5	87.1	81.0	↑		
		79.5	87.1	81.0	↑		
	女性	県	87.1 (R2)	102.0 (R4)	101.6 (R5)	↑	
		全国	109.2	115.9	111.8	↑	
	SMR(対全国)	県	85.2	84.6	85.1	↓	
		北部	96.1	87.4	84.6	↓	
		中部	87.4	86.5	86.8	↓	
		南部	78.8	83.2	84.4	↑	
		宮古	112.1	108.0	106.6	↓	
八重山	79.0	77.0	71.8	↓			

## インパクト評価（個別施策がアウトカムに影響を与えたか）

- ・心疾患の年齢調整死亡率が悪化。圏域では男女とも宮古圏域でSMR（標準化死亡比）が高い。
- ・中間アウトカムでは血糖悪化。脂質や特定健診に関する指標は一部改善しており、一定程度効果をだしている。
- ・血圧は改善傾向だが全国と比べて悪く効果が出ていない。

## 今後の取組方針（検討部会総合評価：強化・継続）

- ・高血圧に対する対策の検討が必要（脳卒中・心不全センター連携）。
- ・課題の大きい圏域での取組強化。

年	指標項目	基準年	直近の前年	直近	結果	
指標 年に一度は健診を受診し、早期発見につとめている。必要に応じて保健指導や適切な治療を受け、重症化を予防している	収縮期血圧140mmHg以上の者の割合	男性(県)	23.4% (R2)	22.6% (R3)	22.7% (R4)	↓
		全国	21.0%	20.3%	20.0%	↓
		北部	33.1%	33.4%	32.1%	↓
		中部	24.2%	21.7%	22.2%	↓
		南部	21.0%	20.7%	21.0%	→
		宮古	28.4%	32.4%	30.3%	↑
		八重山	25.7%	25.4%	24.9%	↓
		女性(県)	18.8% (R2)	18.5% (R3)	18.6% (R4)	↓
		全国	16.3%	16.0%	15.8%	↓
		北部	26.5%	26.6%	26.2%	↓
		中部	18.6%	17.3%	18.4%	↓
		南部	17.4%	17.4%	17.0%	↓
		宮古	25.6%	27.6%	26.9%	↑
		八重山	19.9%	19.3%	19.7%	↓

個別施策

(1)メタボリックシンドロームの予防や改善に関する取組や普及啓発

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	5	4		1
市町村	7割の市町村で実施(29/41)。圏域ごとで取組状況が5割～10割と差がある。			
県民会議	今年度確認予定			

(2)健診受診率向上にむけた取組（地域・職域保健の連携、市町村国保の健診費用助成、受診しやすい体制整備等）

(3)治療が必要な患者の適切な受診に向けた取組（沖縄県医療計画と連携した取組や沖縄県糖尿病性腎症重症化予防プログラムの活用）

中間アウトカム

指標項目	結果	備考
自分に合った食事や運動の量を知り、適正体重を維持するような生活習慣を実践している		
参考指標 適正体重を維持している者の割合	20～60歳代男性肥満者 ↓	全国より悪い
	40～60歳代女性肥満者 ↓	全国より悪い
参考指標 一日の歩数の平均値 * 県民健康・栄養調査(5年ごと)	20～64歳男性 ↑	全国より悪い
	20～64歳女性 ↓	全国より悪い
参考指標 運動習慣者の割合 * 県民健康・栄養調査(5年ごと)	20～64歳男性 ↑	全国より悪い
	20～64歳女性 ↑	全国より悪い
参考指標 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合 * 県民健康・栄養調査(5年ごと)	男性(40g) ↑	全国は改善、沖縄は悪化
	女性(20g) ↓	改善も全国より悪い
参考指標 20歳以上の者の喫煙率	男性 ↑	全国は改善、沖縄は悪化
	女性 ↑	全国は改善、沖縄は悪化

分野アウトカム

指標項目	基準年	直近前年	直近値	結果	中間目標	
(参考)糖尿病の発症が予防できている						
参考指標 HbA1c5.6%未満の者の割合	男性(県)	46.1 (R2)	49.1 (R3)	46.1 (R4)	→	全国並みに改善
	全国	51.8%	51.1%	50.4%	↓	
	北部	44.8%	42.6%	43.6%	↓	
	中部	46.4%	50.7%	45.9%	↓	
	南部	45.4%	48.2%	45.7%	↑	
	宮古	51.9%	55.4%	54.1%	↑	
	八重山	50.1%	54.2%	51.9%	↑	
	女性(県)	49.2 (R2)	52.1 (R3)	47.8 (R4)	↓	
	全国	53.9%	53.5%	52.4%	↓	
	北部	46.7%	44.4%	45.1%	↓	
中部	48.2%	52.6%	45.1%	↓		
南部	49.0%	51.5%	48.2%	↓		
宮古	58.9%	61.1%	59.7%	↑		
八重山	55.8%	58.0%	59.0%	↑		

インパクト評価（個別施策がアウトカムに影響を与えたか）

- ・発症予防のアウトカムHbA1c5.6未満の者の割合が男性で横ばい、女性で悪化している。（県は全国と比べて悪く、北部・中部は県と比べて悪く、悪化傾向）
- ・中間アウトカムでは歩数、飲酒、喫煙が悪化。
- ・適正体重や食塩摂取量・睡眠は改善しているので個別施策が一定程度効果を出していると考えられるものの、全国値と比べて悪く、効果がでていない

今後の取組方針（検討部会総合評価：方法の見直しを含め検討し継続）

- ・歩数、飲酒、喫煙対策の強化を検討。食育は地域・家庭への波及を含め関係者と対策を検討する
- ・課題の大きい圏域での取組強化。特定健診の検査項目としてHbA1cを必須とするなど、沖縄県の課題に応じた踏み込んだ対策について検討が必要ではないか

# 分野

# 肝疾患

## 個別施策

(1)肝疾患予防のための取組や正しい知識の普及啓発

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	8	7		1
市町村	6割の市町村で実施(25/41)、圏域で取組状況に差がある			
県民会議	今年度確認予定			

(2)健診受診率向上にむけた取組（地域・職域保健の連携、市町村国保の健診費用助成、受診しやすい体制整備等）

(3)アルコール健康障害対策推進計画と連携した取組推進

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	4	4		0
市町村	市町村の実施割合は3割程度にとどまっている (11/41)			

## 中間アウトカム

指標項目	結果	備考
過度の飲酒や肥満等により肝疾患のリスクが高まることを理解し、望ましい生活習慣を実践している。		
参考指標 適正体重を維持している者の割合	20~60歳代男性肥満者 ↓	全国より悪い
	40~60歳代女性肥満者 ↓	全国より悪い
参考指標 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合* 県民健康・栄養調査(5年ごと)	男性(40g) ↑	全国は改善、沖縄は悪化
	女性(20g) ↓	改善も全国より悪い

指標項目	結果	備考
年に一度は健診を受診し、早期発見につとめている。必要に応じて保健指導や適切な治療を受け、重症化を予防している		
指標 γ-GTP51IU/L以上の割合	↓	改善も全国より悪い
指標 ALT(GPT)31IU/L以上の割合	↓	改善も全国より悪い
指標 収縮期血圧140mmHg以上の者の割合	↓	全国より悪い
指標 LDLコレステロール160mg/dl以上の者の割合	↓	全国と同程度
指標 HbA1c6.5%以上の者の割合	↑	全国は改善、沖縄は悪化
指標 メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合	↓	改善も全国より悪い
指標 特定健康診査の受診率	↑	改善も全国より悪い
指標 特定保健指導実施率	↑	改善も全国より悪い

## 分野アウトカム

肝疾患による死亡率が減少している	指標項目	基準年	直近の前年	直近値	結果	中間目標		
指標	肝疾患の年齢調整死亡率の全国1位(ベスト値)の都道府県との差	男性	26.8 (R2)	—	—	—	差の縮小	
		女性	2.0 (R2)	—	—	—		
参考指標	肝疾患の年齢調整死亡率	男性	県	39.2 (R2)	41.0 (R4)	47.9 (R5)	↑	減少
			全国	20.2	21.2	20.6	↔	
		SMR(対全国)	県北部	194.0	197.1	209.5	↑	
			県中部	203.4	214.6	206.1	↑	
			県南部	196.6	195.5	217.3	↑	
			宮古	187.6	198.8	214.2	↑	
			八重山	169.5	165.9	169.9	↑	
		女性	県	14.4 (R2)	14.1 (R4)	14.0 (R5)	↓	
			全国	7.7	8.1	8.0	↔	
		SMR(対全国)	県北部	172.5	175.9	176.5	↑	
			県中部	177.7	169.4	160.2	↓	
			県南部	187.1	173.7	172.5	↓	
宮古	148.0		169.7	168.6	↑			
八重山	168.8		159.0	182.9	↑			
八重山	171.8	152.8	112.3	↓				

## インパクト評価（個別施策がアウトカムに影響を与えたか）

- ・ 男性の肝疾患の死亡率が悪化、女性は改善しているが全国との差が大きく、効果がでていない。男性は八重山を除くすべての圏域でSMRが悪化傾向。女性は南部・宮古で悪化。HbA1c6.5%以上の割合は特に北部圏域で男女とも高い
- ・ 中間アウトカムでは男性で生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者が増加している。男女とも全国より高い。

## 今後の取組方針（検討部会総合評価：方法の見直しを含め検討し継続）

- ・ 飲酒対策は効果が上がっていないとみなさざるを得ず、同じ手法の継続では改善しない。男性への適正飲酒アプローチを抜本的に見直しが必要。
- ・ 脂肪肝対策として糖質過剰摂取などアンバランスな食生活への注意喚起

年に一度は健診を受診し、早期発見につとめている。必要に応じて保健指導や適切な治療を受け、重症化を予防している	指標項目	基準年	直近の前年	直近値	結果	中間目標	
指標	HbA1c6.5%以上の者の割合	男性(県)	11.0% (R2)	10.9% (R3)	11.2% (R4)	↑	全国並みに改善
		全国	11.0%	9.5%	9.5%	↓	
		県北部	11.9%	12.4%	12.3%	↑	
		県中部	10.8%	10.2%	11.0%	↑	
		県南部	10.7%	11.0%	11.2%	↑	
		宮古	12.5%	11.9%	11.9%	↔	
		八重山	12.5%	11.7%	11.4%	↓	
		女性(県)	6.1% (R2)	5.8% (R3)	6.2% (R4)	↑	
		全国	4.7%	4.6%	4.6%	↔	
		県北部	6.8%	6.8%	7.3%	↑	
		県中部	6.4%	5.8%	6.8%	↑	
		県南部	5.8%	5.6%	5.8%	→	
		宮古	6.3%	6.1%	6.3%	→	
		八重山	6.5%	6.2%	5.9%	↓	

個別施策

(1) COPDに関する正しい知識と認知度の向上(若い世代への普及啓発を含む)

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	2	2		0
市町村	3割強の市町村で実施(15/41)			
県民会議	今年度確認予定			

(2) 禁煙に取り組みやすい環境づくり

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	3	3		
市町村	5割の市町村で実施(26/41)			

(3) COPDの早期発見(特定健診受診率向上)

(4) COPDの重症化予防

中間アウトカム

指標項目	結果	備考
県民一人ひとりがCOPDの発症や重症化を予防する生活習慣を身につけている	-	
指標 COPDを認知している者の割合(15歳以上)	-	
指標 20歳以上の者の喫煙率	男性	↑ 全国は改善、沖縄は悪化
	女性	↑ 全国は改善、沖縄は悪化
参考指標 喫煙者のうち、禁煙しようと思う者の割合(20歳以上)	↓	全国も悪化。目標値に達していない
参考指標 望まない受動喫煙を有する者の割合(家庭、職場、飲食店)(20歳以上)	職場	↓ 全国よりも良い。最終目標達成には達していない
	飲食店	↑ 全国も悪化。目標値に達していない
		→ 横ばいも目標値に達していない
	↑	悪化傾向

分野アウトカム

COPDによる死亡率が減少している		指標項目	基準年	直近の前年	直近値	結果	中間目標	
指標	COPDの年齢調整死亡率の全国1位(ベスト値)の都道府県との差	男性	13.7 (R2)	-	-	-	差の縮小	
		女性	3.3 (R2)	-	-	-		
参考指標	COPDの年齢調整死亡率	男性	県	34.3 (R2)	23.4 (R4)	25.2 (R5)	↓	減少
			全国	25.7	25.1	24.9	↓	
		SMR(対全国)	県	123.9	118.8	108.0	↓	
			北部	123.7	119.0	115.5	↓	
			中部	140.5	129.3	115.7	↓	
			南部	115.1	121.7	102.1	↓	
			宮古	144.1	134.4	136.7	↓	
		八重山	130.3	119.6	91.2	↓		
		女性	県	4.4 (R2)	3.5 (R4)	4.0 (R5)	↓	
			全国	2.9	2.8	2.7	↓	
		SMR(対全国)	県	193.8	174.2	145.8	↓	
			北部	132.7	114.4	141.6	↑	
中部	244.4		239.5	200.9	↓			
南部	197.5		174.9	123.7	↓			
宮古	223.4		173.6	218.8	↓			
八重山	80.2	59.3	22.3	↓				

インパクト評価 (個別施策がアウトカムに影響を与えたか)

- ・アウトカムであるCOPDの死亡率は改善しているが、中間アウトカムの喫煙率、母親の喫煙率が悪化しており、タイムラグを考慮しても治療の進歩による影響が大きいと考えられる。SMRは北部圏域女性を除きすべて改善しているものの八重山を除き、すべての圏域で全国より高い。
- ・個別施策は概ね計画通りに実施されているもののポピュレーションアプローチが多く喫煙者への対策には効果がでていない。外部要因として、コロナ禍の影響、加熱式タバコの普及等で30代40代の喫煙率が増加しているという報告がある。

今後の取組方針 (検討部会総合評価：方法の見直しを含め検討し継続)

- ・喫煙者への取組を強化する必要あり。特に妊婦の禁煙支援は関係者と共有し対策を検討する
- ・喫煙防止教育の強化

個別施策

(1)主体的な取組につながる情報提供とバランスの良い食事と減塩の啓発

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	12	11		1
市町村	9割以上の実施。高齢者向けの対策は5割程度にとどまっている			
県民会議	今年度確認予定			

(2)関係団体と連携した食育推進

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	1			1
市町村	食育推進計画策定市町村は6割にとどまっている			

(3)食事を支える食環境の整備（自然に健康になれる環境づくり）

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	8	7		1
市町村	16市町村では食環境整備に関する独自登録制度やボランティア活動などを実施			

中間アウトカム

さまざまな経験を通して「食」に関する知識と選択する力を習得できている	指標項目	結果	備考
指標	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合(15歳以上)*県民健康・栄養調査(5年ごと)	↑	全国は横ばい、沖縄は改善
指標	食塩摂取量(1日当たりの平均摂取量)(成人)*県民健康・栄養調査(5年ごと)	↓	全国より良い
指標	野菜摂取量(1日当たりの平均摂取量)(成人)*県民健康・栄養調査(5年ごと)	↓	全国も減少だが全国より少ない
指標	果物摂取量(1日当たりの平均摂取量)(成人)*県民健康・栄養調査(5年ごと)	↓	悪化傾向
指標	脂肪エネルギー比率が30%を超える者の割合(成人)	↑	悪化傾向
参考	人と比較して食べる速度が遅い人の割合	↓	改善傾向

分野アウトカム

自分に合った適切な量と質の食事をとり、適正体重を維持できている		指標項目	基準年	直近の前年	直近値	結果	中間目標
指標	小5	男児	17.06% (R4)	14.10% (R5)	13.72% (R6)	↓	減少
		女児	14.44% (R4)	12.76% (R5)	9.89% (R6)	↓	
	20~60歳代男性肥満者	46.0% (R4)	45.3% (R5)	45.3% (R6)	↓	35%	
	40~60歳代女性肥満者	31.7% (R2)	31.0% (R3)	30.7% (R4)	↓	28%	
	20~30歳代女性やせ	16.7% (R4)	17.0% (R5)	16.6% (R6)	↓	16%	
	65歳以上	肥満者	39.8% (R4)	38.4% (R5)	38.0% (R6)	↓	38%
	低栄養傾向の者	10.0% (R4)	7.1% (R5)	11.1% (R6)	↑	9%	

インパクト評価（個別施策がアウトカムに影響を与えたか）

- ・ 高齢者の低栄養の指標が悪化しており、中間アウトカムでは野菜・果物・志望エネルギー比率が悪化していた。そのほかの指標は改善しており、個別施策は一定程度効果をだしていると考えられる。
- ・ 健康意識の高まりなど外部要因の影響もあると考えられる。

今後の取組方針（検討部会総合評価：方法の見直しを含め検討し継続）

- ・ 高齢者の介護予防と保健事業の一体的実施やフレイル対策や介護予防部署との連携強化。
- ・ スマートミールの普及等自然に健康になれる「食環境（応援店等）」の拡充。

個別施策

- (1)身体活動・運動の意義・重要性の普及・啓発
- (2)こどもの運動習慣獲得・定着支援

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	5	5		
市町村	9割以上の実施。こども向けは2割、高齢者向けは3割とターゲット層を絞った取組状況には差がある			

- (3)運動機会の創出・確保に資する社会環境の整備
- (4)歩きやすい環境の整備（公共交通システムの戦略的再編、過度な自家用車利用からの転換）

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	27	23	3	1
	県立学校体育施設の有効活用に関する取組が未着手となっているが利用希望団体がなかったことによる			
市町村	環境整備に取り組んでいると回答した市町村は4市町村と少ない			

中間アウトカム

自分合った身体活動・運動の意義や楽しさを実感できている	指標項目	結果	備考
参考	いずれかの社会活動(就労・就学含む)を行っている者の割合	77.5% (R6)	R6は現状値把握
なし	(現時点で統計がないが設定が望ましい参考指標)「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023」を知っている者の割合	-	捕捉方法なし(今後検討)

運動する機会・環境が確保できている	指標項目	結果	備考
参考	一人当たり都市公園等面積	→	全国平均(12.7)より低い

分野アウトカム

自分に合った身体活動・運動を日常生活の中で継続的にやっている	指標項目	基準年	直近の前年	直近値	結果	中間目標	
指標	一日の歩数の平均値	20~64歳男性	6640 (H28)	-	7603 (R6)	↑	7500
		20~64歳女性	6366 (H28)	-	6231 (R6)	↓	7400
		65歳以上男性	5430 (H28)	-	6179 (R6)	↑	5800
		65歳以上女性	4905 (H28)	-	5325 (R6)	↑	5600
		運動習慣者の割合	20~64歳男性	30.3% (R3)	-	36.4% (R6)	↑
	20~64歳女性	19.3% (R3)	-	22.0% (R6)	↑	26%	
	65歳以上男性	56.6% (R3)	-	55.3% (R6)	↓	60%	
	65歳以上女性	43.0% (R3)	-	37.5% (R6)	↓	46%	
指標	1週間の総運動時間(体育授業を除く。)が60分未満の児童の割合 ※「運動習慣者」とは1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者をいう。	小5男子	12.8% (R4)	11.5% (R6)	10.5% (R7)	↓	減少
		小5女子	20.8% (R4)	21.6% (R6)	20.1% (R7)	↓	減少
		中2男子	10.9% (R4)	12.7% (R6)	11.5% (R7)	↑	減少
		中2女子	21.1% (R4)	25.3% (R6)	22.2% (R7)	↑	減少

インパクト評価（個別施策がアウトカムに影響を与えたか）

・20~64歳の女性の歩数、65歳以上の男女の運動習慣者の割合や中2男女の1週間の総運動時間は悪化しているが、全体の歩数の平均や20~64歳の運動習慣者の割合は増加しており、一定程度効果をだしているものの圏域ごとに取り組状況に差がある。

今後の取組方針（検討部会総合評価：方法の見直しを含め検討し継続）

- ・高齢者については、熱中症にも配慮した運動機会の提供等、世代に応じた取組の展開を検討
- ・公共交通機関の利用促進や通勤・通学等の機会を活用した運動機会の創出の啓発など、関係部署と連携した取組強化を検討

個別施策

(1)十分な休養と睡眠の確保（普及啓発、関係団体と連携した環境整備）

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	4	4		
市町村	市町村の8割で実施。高齢者向けの取組を実施していると回答したのは数か所にとどまっている			

(2)関係団体と連携した孤立を防ぐ地域づくりの推進

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	7	6		1
	未着手の取組はコロナ後を踏まえ、食育推進協議会に代えて食育活動団体交流会を開催したことによるもの。			
市町村	市町村の取組状況は3割程度で取組状況に差がある			

(3)不安や悩みを相談できる環境整備（自殺総合対策行動計画等と連携した取組）

中間アウトカム

仕事と休養にメリハリをつけ、十分な睡眠の量が確保でき、質が高い睡眠が取れるよう工夫できている	指標項目	結果	備考	
指標	週間就業時間60時間以上の被雇用者の割合	↓	全国も改善傾向だが全国より良い	
指標	睡眠時間が6～9時間の者の割合（60歳以上は6～8時間）	全体	↑	全国と同様に改善傾向
		20～59歳	↑	
		60歳以上	↑	
指標	睡眠で休養がとれている者の割合	全体	↓	全国より良いが、悪化している
		20～59歳	↑	全国と同様に改善傾向
		60歳以上	↓	悪化傾向であり、全国より悪い

ボランティアや通いの場といった人々とつながる社会活動に参加し、家族や親しい友人などと食事を楽しむ機会を設けている	指標項目	結果	備考
参考	人と人とのつながりが強いと思う者の割合	30.3% (R6)	R6は現状値把握
参考	いずれかの社会活動(就労・就学を含む)を行っている者の割合	77.5% (R6)	
参考	共食している者の割合	19.4% (R6)	

分野アウトカム

ストレスと上手に付き合い生き生きと自分らしく過ごしている	指標項目	基準年	直近の前年	直近値	結果	中間目標
指標	K6(こころの状態を評価する指標)の合計得点10点以上の者の割合	9.0% (R4)	—	—	—	8.8%
指標	自殺死亡率	18.8% (R4)	18.1% (R5)	16.4% (R6)	↓	14.5%

インパクト評価（個別施策がアウトカムに影響を与えたか）

- ・自殺率は減少しており、中間アウトカムの睡眠時間が確保できている者の割合も増加しているため、効果がでているものの睡眠休養感は悪化している。
- ・全国的には若者の自殺者数が増加しており、本県においては自殺対策においては医療機関へのアクセスの問題について指摘がある。

今後の取組方針（検討部会総合評価：強化、継続）

- ・健康経営やメンタルヘルス対策の推進など、十分な休養と睡眠の確保（普及啓発、関係団体と連携した環境整備）に関する取組の継続
- ・自殺対策については、県医師会や関係機関と連携した取組を検討。

個別施策

(1)飲酒の健康影響に関する普及啓発（節度ある適度な飲酒量、20歳未満や妊婦の飲酒防止、アルコールに関連問題等を含む）

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	8	7	1	
	青少年の非行防止県民一斉行動の実施に関して、参加人数が目標値に達しなかったため大幅遅れと判定。社会環境実態調査を通じて、各市町村から携帯電話販売業者等に対し、フィルタリング普及啓発活動の強化を図る等の改善を図る			
市町村	8割の市町村で取組実施。妊婦の飲酒について親子健康手帳交付時、マタニティスクール、乳幼児健康診査時における飲酒に関する保健指導を実施している			

(2)アルコール健康障害を有している者とその家族への相談支援体制の強化（アルコール健康障害対策推進計画と連携した取組）

中間アウトカム

飲酒による健康への影響を正しく理解できている。20歳未満の者や妊婦は飲酒しない	指標項目	結果	備考
指標	妊婦の飲酒率	↑	悪化傾向

分野アウトカム

飲酒する場合は、生活習慣病のリスクを高めめない程度の量や頻度を心がけている	指標項目	基準年	直近の前年	直近値	結果	中間目標	
指標	1日当たりの純アルコール量が男性40g以上、女性20g以上を飲酒している者の割合(20歳以上)	男性	17.2% (R3)	—	25.8% (R6)	↑	16%
		女性	13.1% (R3)	—	11.4% (R6)	↓	11%

- ・ 男性やハイリスク妊婦への対応については強化が必要
- ・ 節酒カレンダーアプリの更なる啓発

インパクト評価（個別施策がアウトカムに影響を与えたか）

- ・ 肝疾患の年齢調整死亡率も悪化している。
- ・ 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合は男性では悪化している。
- ・ 女性の割合は減少しているものの、未だ全国と比べて高くあまり効果を出していない。

今後の取組方針（検討部会総合評価：強化・継続）

- ・ 飲酒対策は効果が上がっていないとみなさざるを得ず、同じ手法の継続では改善しない。男性への適正飲酒アプローチを抜本的に見直しが必要。
- ・ 節酒カレンダーアプリの更なる啓発を行うとともに、ハイリスク妊婦への対応については強化が必要

個別施策

(1)喫煙の健康影響に関する普及啓発（喫煙・受動喫煙、20歳未満や妊婦の喫煙防止、禁煙支援を含む）

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	6	5	1	
	青少年の非行防止県民一斉行動の実施に関して、参加人数が目標値に達しなかったため大幅遅れと判定。社会環境実態調査を通じて、各市町村から携帯電話販売業者等に対し、フィルタリング普及啓発活動の強化を図る等の改善を図る			
市町村	6割の市町村で取組実施。妊婦の喫煙について親子健康手帳交付時、マタニティスクール、乳幼児健康診査時における飲酒に関する保健指導を実施している			

(2)受動喫煙防止対策の推進

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	1	1		
市町村	ほぼすべての市町村で家庭での受動喫煙防止対策は実施されている。敷地内全面禁煙となっていない庁舎がある			

中間アウトカム

喫煙の健康影響を正しく理解できている。20歳未満の者や妊婦及びその周囲の人は喫煙しない		指標項目	結果	備考
指標	妊婦の喫煙率		→	横ばいだが全国は改善傾向
指標	望まない受動喫煙を有する者の割合(家庭:両親の喫煙率)	父親	→	全国的には家庭での受動喫煙は減少傾向
		母親	↑	
指標	喫煙者のうち、禁煙しようと思う者の割合		↓	全国より良いが、目標と離れている

喫煙者は喫煙が認められた場所以外では喫煙をせず、望まない受動喫煙を防止するよう努めている		指標項目	結果	備考
参考指標	望まない受動喫煙の機会を有する者の割合(職場、飲食店、家庭)	職場	↓	全国より良い
		飲食店	↑	全国的にも悪化傾向、全国より悪い

分野アウトカム

喫煙率が減少している(喫煙をやめたいものがやめることができています)		指標項目	基準年	直近の前年	直近値	結果	中間目標
指標	20歳以上の喫煙率	男性	24.2% (R3)	—	25.8% (R6)	↑	20%
		女性	5.0% (R3)	—	8.0% (R6)	↑	4%

インパクト評価（個別施策がアウトカムに影響を与えたか）

- ・喫煙率は男女とも悪化しており、中間アウトカムの子育て期間中の母親の喫煙率は悪化。
- ・受動喫煙は飲食店で悪化。職場における受動喫煙は改善しており、一部効果がでていないものの喫煙対策としてあまり効果がでていない。
- ・外部要因として、コロナ禍の影響、加熱式タバコの普及等で30代40代の喫煙率が増加しているという報告がある。

今後の取組方針（検討部会総合評価：方法の見直しを含め検討し継続）

- ・今後も取組を継続しつつ、加熱式タバコやハイリスク妊婦への対応については強化が必要。特に情報発信の方法はターゲットに響くような方法の検討が必要。若年層への喫煙防止教育（未成年が吸い始めないための対策）の強化。
- ・受動喫煙対策は飲食店で悪化しており、引き続き取り組んでいく

個別施策

(1)むし歯や歯周病予防に関する普及啓発

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	7	6	1	
	歯っぴ〜センターにおいて、ライフステージに応じた出前講座を実施しているが、歯周病が課題となりやすい働き盛り世代への講座依頼が少ない			
市町村	乳幼児健診や2歳児歯科検診、口腔フレイル予防などの取組を7割の市町村で実施			

(2)歯科口腔保健推進体制の整備

	合計	順調/概ね順調	やや遅れ/大幅遅れ	未着手
県	1	1		
市町村	約4割の市町村で実施、マンパワー不足や受診者が少ない等の課題がある			

中間アウトカム

指標項目	結果	備考
むし歯や歯周病を予防する生活習慣を身につけている。定期的に歯科検診を受け、必要に応じて歯科保健指導や治療を受けることができる		
指標 3歳児でむし歯のある者のうち4本以上のむし歯のある者の割合	↓	改善傾向も、全国より悪い
指標 12歳児でむし歯のある者の割合	↓	改善傾向も、全国より悪い
指標 17歳児で未処置歯のある者の割合	↓	改善傾向も、全国より悪い

指標項目	結果	備考
(参考)様々な場所や機会でも歯科に関する制度を利用できている		
参考指標 フッ化物洗口を実施している施設数(保育所、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校)	↓	悪化しているがコロナ後再開
参考指標 歯周疾患検診等成人対象の歯科検診を実施している市町村の割合	↑	改善傾向

分野アウトカム

生涯にわたり自分の歯で食べる楽しみを味わっている	指標項目	基準年	直近の前年	直近値	結果	中間目標
指標 70歳以上で何でも噛んで食べることができる者の割合		53.2% (R3)	—	70.8% (R6)	↑	72%

インパクト評価 (個別施策がアウトカムに影響を与えたか)

- ・なんでも噛んで食べることができる者の割合は増加しており、効果を出しているといえるが、12歳児のむし歯保有率は全国ワーストである。
- ・フッ化物洗口の実施校はコロナで減少していたが再開している学校も増加している。今後の推移を確認する必要がある。

今後の取組方針 (検討部会総合評価：強化・継続)

- ・働き盛り世代へのアプローチと合わせて、歯科検診の定期的(3か月～半年に1回)な受診勧奨を行うなどの対策の検討
- ・歯科治療時に全身疾患(糖尿病等)と関連とあわせて健康相談が対応できるような人材育成等についても検討が必要